

報道関係各位

飯 能 市
記 者 発 表 資 料
令 和 2 年 8 月 2 7 日件 名 飯能市G I G Aスクール構想スタートについて**1 概要**

飯能市では、国のG I G Aスクール構想を県内最速でスタートします。

令和2年9月1日より、市内全ての公立小・中学校で全児童生徒への1人1台のL T E対応のタブレット端末を導入し、本市が目指す「学びの改革」への挑戦を始めます。

2 内容

文部科学省の補助事業であるG I G Aスクール構想が、昨年12月に発表された。G I G Aスクール構想の当初の計画では、令和5年度までに児童生徒全てに1人1台の学習用端末と高速大容量通信ネットワークを一体的に整備する構想となっていた。飯能市では、市政理念でもある「誰一人の漏れもない質の高い教育を全ての教室で実現する」ことを目指し、G I G Aスクール構想が打ち出された当初から全児童生徒への貸与を計画し、令和2年9月1日から飯能市の全児童生徒に対しタブレット端末を学びのツールとする授業が行われます。

飯能市がG I G Aスクール構想で目指す「学びの改革」

- ・タブレット端末をコミュニケーションツールとして、個々の考えをペアやグループ、学級全体で共有する創造的、探究的、協同的な学びによって、問題解決能力やコミュニケーション能力を育成する。
- ・タブレット端末をノートや鉛筆のように使いこなし、場所を選ばず情報を入手、活用できる力を育成する。
- ・全ての学級でリモート授業を行える環境をつくり、新型コロナウイルス感染症等による休校等、予測不能な事態に備える。

3 導入の様子

タブレット端末を配付する様子、タブレット端末を学習に活用し始める様子を公開いたします。

- **日時** : 令和2年9月1日（火） 午前10時40分～12時20分
- **場所** : 飯能市立加治小学校

担当者 学校教育課長
西條 誠
連絡先 Tel.042-973-3018

1 飯能市が目指す教育 ― 学びの共同体が創る「21 世紀型の学校」 ―

飯能市は、Society5.0 時代を迎え一層グローバル化の進む「知識基盤社会」「多文化共生社会」を生き抜く人材、発展都市飯能を担う人材の育成を目指し学びの共同体が創る「21 世紀型の学校」を作り、「学びの改革」を推進します。

(1) 「21 世紀型の学校」で推進する「学びの改革」

「21 世紀型の学校」によって推進する「学びの改革」とは、教師による教え込みや暗記中心の学習から脱却し、次のような教育へ変換する改革です。

創造的、探究的で協同的な学びによって、知識の活用能力と情報処理能力、問題解決能力やコミュニケーション能力を養う教育

(2) 「学びの改革」で目指す授業像

飯能市では、次のような授業によって「学びの改革」を具体化します。

○ 問題解決的な学習

- ・ 自らの生活や生きた社会から問題を見つけ、解決していく学習

○ 協同的な学習

- ・ 子ども同士の協同的な学習による、1 人の漏れもない質の高い学び（高いレベルの学習）の実現

○ 豊かな自然環境や特色ある地域の資源、人材を生かす体験的な学習

- ・ 教室に留まらない、飯能市の豊かな自然環境の中での体験的な学習
- ・ 地域の産業や歴史、教育的な人材から学ぶ学習

○ コミュニケーションツールとしての最先端 ICT の活用

- ・ 問題解決的、協同的、体験的な学習をサポートするコミュニケーションツールとしてのタブレット端末等、ICT 機器を活用した学習

(3) 飯能市が連携・協働する教育資源

飯能市は、「学びの改革」のため、次の教育資源と連携・協働していきます。

○ 地域の大学・産業・地域住民等の教育資源

- ・ 駿河台大学、県立高校、林業家、メツツア等の企業と連携します。

○ 豊かな自然、森林資源

- ・ 「持続可能な発展都市」飯能の未来を担う児童生徒を育成するため、飯能市の豊かな自然、森林資源を生かした体験活動を行っていきます。

○ フィンランドとの交流

- ・ 協同的な学び、ICT を活用した学びを世界に先駆けて導入し、PISA 調査の「読解力」で輝かしい成果をあげているフィンランドとの交流により、教育の質を高めています。

(4) 飯能市の「学びの改革」にとって重要な ICT 環境整備

○ 「問題解決的な学習」に不可欠な「探究」と「協同」を強力に推進できる

- ・ 個々の考えやグループの「思考」「探究」を学級全体で共有できる。

○ 「多面的な読解力(マルチリテラシー)」を効果的に育成できる。

- ・ 場所を選ばず情報を入手、活用できる。(PISA で重視)

○ 海外を含め、多様な人々と交流することができる。

- ・ 山間部が多い飯能市は、潜在的に遠隔教育の重要性がある。

2 奥武蔵創造学園における学びの改革

令和元年度に開校した奥武蔵創造学園では、全ての児童生徒にLTE 型タブレット端末を導入し、学びの質の向上が成果として現れています。

また、新型コロナウイルス感染症蔓延に係る臨時休業期間においても、タブレット端末のテレビ会議システムを活用し、児童生徒は各家庭において、教師は教室において遠隔授業を行いました。教師の投げかけに対して自然に探究と対話が始まるその様子は、教室における授業と何ら変わりのない質の高い学習でした。

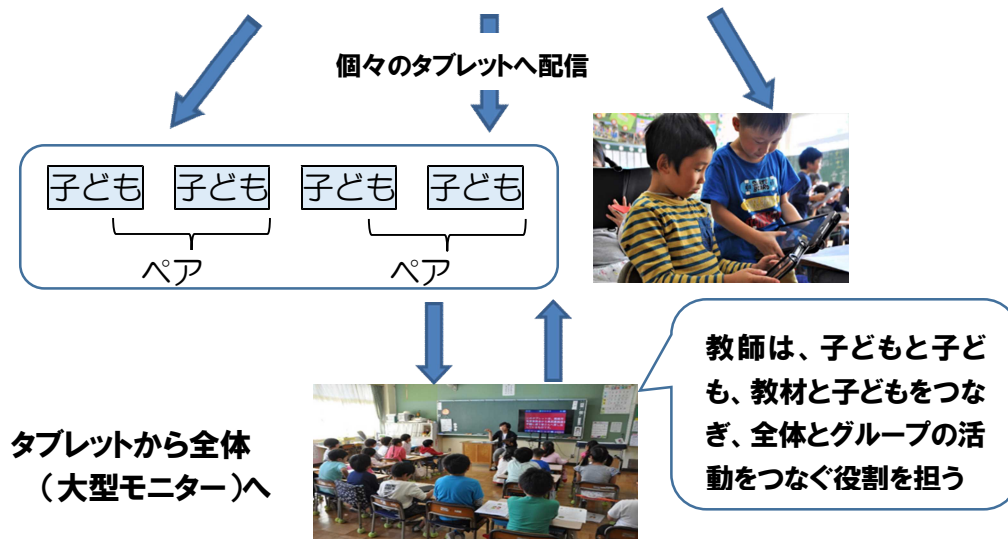


奥武蔵小における遠隔授業

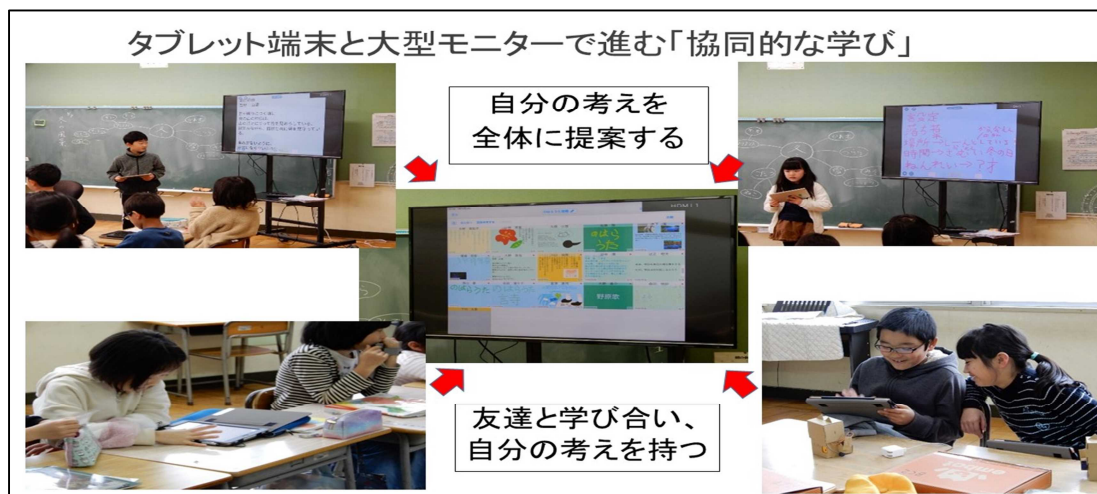
(1) 奥武蔵創造学園での活用実績

① 飯能市が進める「主体的・対話的で深い学び」である、「探究」と「協同」の授業づくりのための活用

- 教師**
- ・ 授業の目標、問題（課題）の設定
 - ・ 配布資料（問題文、図、表、動画、写真等）の作成



授業イメージ



※教師は、子どもが協同して学ぶ必要がある、高度な問題を設定する。

- ② 校庭や社会科見学、総合的な学習の時間で森林に出かける等校外学習時においても、調べ学習や写真や動画の撮影等を、通信機能を使いながら活用している。



奥武蔵中 体育



奥武蔵中 理科



奥武蔵小 社会科見学



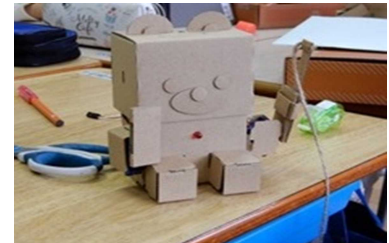
奥武蔵中 水と緑の学習

(2) タブレット端末導入で予想されるその他の効果

- ① 全ての教科、領域で教師、児童生徒の創造性を引き出し、現在行われている以上の使い方が期待される。
- ② 特別支援教育における視覚的・感覚的な授業支援に活用できる。
- ③ 教職員の働き方改革につながる。
 - “配付”していたプリント教材を“配信”できる
 - 教職員間の会議等において、ペーパーレスとなる
 - 家庭への配布物、緊急連絡も行える(家庭との連携の強化)



奥武蔵小学校 音楽



(3) LTE 型タブレット端末導入に係り必要となる事業

- ① 最大限に活用するための事業
 - 教育センター主催の活用事例研修
 - 指導主事による活用例紹介のための「出前授業」
 - 奥武蔵小・中学校等、先進校での公開授業研究会
- ② 保守管理するための事業
 - 教育委員会による定数管理
 - ・ 年度ごとに各校の端末個数を確認し、調整する。
 - 故障等への対応
 - 更新に係る事務処理

3 国が示す GIGA スクール構想

国は昨年 6 月、「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策」を発表し、新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けた、次代の人材育成を目指す国の方針を示しました。

(1) 国の方針

- 多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びの実現
- 教師本来の活動を置き換えるものではなく、「子供の力を最大限に引き出す」に ICT を基盤とした先端技術の整備
- 遠隔教育をはじめ、ICT を基盤とした先端技術の効果的な活用
- 基盤となる ICT 環境整備の強力な推進
- 新学習指導要領における、「児童生徒の情報活用能力」の『学習の基盤となる資質・能力』としての位置付け

(2) 国の現状分析と課題

- 学校の通信ネットワークが脆弱で ICT 環境は不十分
- どのような場面でどのような機器を活用すべきか、検証例が少ない

(3) GIGA スクール構想

- 令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律の ICT 環境を整備
- 1 人 1 台の PC 端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備
- 多様な子どもたちを「誰ひとり取り残すことのない」、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現

(4) 実現に向けたロードマップ

① 校内通信ネットワークの整備

令和 2 年度内において、希望するすべての小中学校等における校内 LAN(通信ネットワーク)整備を計画しています(加えて小・中学校等に電源キャビネットの整備)。

② 児童生徒 1 人 1 台端末の整備

令和 5 年度までに、義務教育における 1 人 1 台の PC 端末を整備する計画が示されています。令和 2 年度は、小学校 5 年生から中学校 1 年生まで、令和 3 年度には中学 2、3 年生に。そして、令和 4 年度、そして 5 年度と順次小学校中学年、小学校低学年の導入を計画しています。

③ 令和 2 年度補正予算による対応

「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」(令和 2 年 4 月 7 日閣議決定)において、「令和 5 年度までの児童生徒 1 人 1 台端末の整備スケジュールの加速、学校現場への ICT 技術者の配置の支援、在宅・オンライン学習に必要な通信環境の整備を図るとともに、在宅での PC 等を用いた問題演習による学習・評価が可能なプラットフォームの実現を目指す。」とし、令和 5 年度に達成すると予定していた端末整備事業の前倒しを支援することとしました。

4 飯能市のタブレット端末導入方針（「GIGA スクール構想」）

本市教育の目指す方向性と今回の国の「GIGA スクール構想」は軌を一にし、これを積極的に推進することは、飯能市の目指す「学びの改革」を大きく推進することにつながると認識し、以下の方針で整備を行ってまいります。

(1) タブレット端末導入の基本方針

飯能市教育にとって ICT 環境整備が非常に重要であることから、タブレット端末導入の基本方針を次の通りとします。

「1人1台」のLTE 型タブレット端末を学びのツールとして活用することによって、知識の活用能力と情報処理能力、問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付けることで、本市が推進する「学びの改革」を実現する。

(2) 具体的な導入計画

① 高速大容量回線の接続が可能となる校内 LAN を整備

○ 令和元年度補正予算で整備（繰越明許）

○ すべての小中学校に整備

※ 校内 LAN 整備を行う理由

今回導入する GIGA スクール構想が示す Wi-Fi 環境は、現在飯能市で運用しているカテゴリ 5E を超える、カテゴリ 6A を標準装備するものです。

これにより、ストレスを感じることなく使用できる環境となります。また、校舎内での通信を Wi-Fi 環境にすることで、通信容量を節約することができます。

② LTE 型タブレット端末「1人1台環境」の整備

○ 令和2年度の小中学生用5,142台（奥武蔵創造学園除く）と教職員用390台、及び予備18台、計5,550台を整備

(3) LTE 型タブレット端末を導入する理由

飯能市が国のロードマップより早く導入する理由及びLTE 型タブレット端末を選択する理由は以下のとおりです。

① 初年度から小学1年生から「1人1台」で導入する理由

○ 本市が推進する「学びの改革」が目指す教育を、小学校入学時から全ての教室で、1人の漏れもなく実現するため。

○ ICT 環境への順応は低年齢ほど早く、効果の早期顕現が期待できるため。

○ 奥武蔵小の導入で効果的に活用していることを確認できたため。

② LTE 型を選択する理由

○ LTE 型タブレットは、社会科見学や家庭等で活用でき、授業における活用はもちろん、社会科見学など校外での使用や、家庭での活用をととして学習の幅を広げることが可能であるため。

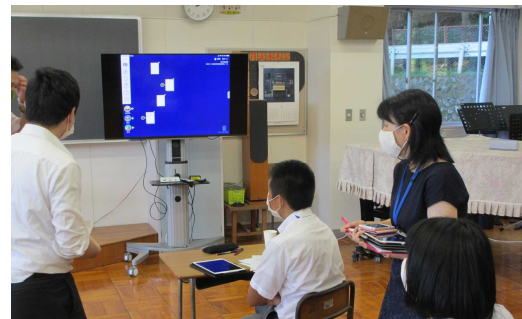


1年生 生活科

5 タブレット端末導入に係る事業日程

(1) これまで

- ① 6月24日 児童生徒1人1台端末整備事業 受注者・導入業者決定
 - ・ 受注者 日本教育情報機器
 - ・ 導入業者 NTTdocomo
- ② 7月17日 校内ネットワーク整備事業 受注者決定
 - ・ 受注者 リコージャパン
- ③ 8月 5日 富士見小学校 GIGA スクール構想 校内研修
- ④ 8月20日 タブレット学校管理研修会
 - ・ 対象 小・中学校管理職
- ⑤ 8月20日 奥武蔵中学校 タブレット活用研修会
 - ・ 対象 中学校教員



- ⑥ 8月21日 奥武蔵小学校 タブレット活用研修会
 - ・ 対象 小学校教員
- ⑦ 8月24日 各校へのタブレット端末配送

(2) 今後

- ① 8月28日 導入業者によるタブレット端末設定作業
- ② 8月28日 docomo・MetaMoji 研修会
 - ・ 対象 小・中学校教員
- ③ 9月 1日 全児童生徒 タブレット端末使用開始
- ④ 9月 3日 ロイロノート・スクール研修会
 - ・ 対象 小・中学校教員
- ⑤ 9月～12月 校内ネットワーク整備事業 各小・中学校工事
 - ・ Wi-Fi アクセスポイント追加工事
 - ・ インターネット回線追加工事